

# 下川町農耕地土壤図(1/5万)

(地力保全基本調査、上川北部地域)

1997年 3 月

北海道 上川 支 庁  
北海道立上川農業試験場

本調査は、農林水産省北海道農業試験場が刊行した土性調査報告書第23編「上川北部地域」をもとに、下川町に分布する土壌統について地力保全基本調査様式に編集した資料である。一部土壌分析に関しては、道立天北農試が行った草地開発基本調査の資料を記載した。

(道立上川農業試験場 土壌肥料科)

## 目 次

I. 土壌統および土壌区一覧 .....	1
II. 各土壌統の説明 .....	3
1. 桑 の 沢 統 (KS) .....	3
2. 北 町 統 (KT) .....	5
3. ペ ン ケ 統 (PE) .....	7
4. 下 川 第 1 統 (D) .....	9
5. 中 成 統 (T) .....	11
6. 下 川 第 3 統 (DS) .....	13
7. 矢 文 統 (Y) .....	15
8. 下 川 第 2 統 (DN) .....	17
9. パ ン ケ 統 (PN) .....	19
10. 冊 留 統 (SN) .....	21
11. 末 広 統 (S) .....	23
12. 御 車 統 (G) .....	25
III. 参考地点の土壌分析地 .....	27

# I. 土壌統および土壌区一覧

## (1) 下川町土壌統一覧

統番号	地図上 記号・ 代表No.	土 壌 統 名 (分布面積) 計 3698 ha	色 層 序	腐 植 層 序	簡 略 分 級 式	礫層・砂礫 層礫を混在 する砂層	酸 化 沈 積 物	土 性	
								表 層	次 層
1	KS 27	桑の沢統 270	YR/YR	表層腐植層 なし	IVtIIIpII wfnase	なし	なし	強粘質	強粘質
2	KT 22	北町統 523	YR/YR	表層腐植層 なし	IIItwIIp wfase	なし	なし	強粘質	強粘質
3	PE 4	ペンケ統 976	YR/YR	表層腐植層 なし	IIIt(w)s eIIdfnia	40~67cm混在 67cm以下礫層	なし	壤質 ~粘質	壊質 ~粘質
4	D 25	下川第1統 181	YR/YR	表層腐植層 なし	IVtdgIII piIIwna se	0~43cm混在 43cm以下礫層	なし	強粘性	強粘性
5	T 40	中成統 561	YR/Y	表層腐植層 なし	IIItpw n IVdf	なし	全層	強粘性	強粘性
6	DS 54	下川第3統 76	YR/YR	表層腐植層	IItpna	なし	なし	強粘性	強粘性
7	Y 59B	矢文統 78	YR/YR	表層腐植層 なし	水田 IIpna	60cm以下	なし	強粘性	礫質
8	DN 70	下川第2統 410	YR/YR	表層腐植層 なし	水田 IIIdla	50cm以下	なし	粘質	礫質
9	PN 4	パンケ統 420	YR/YR	表層腐植層 なし	IIIdInIIp ia	20cm以下	なし	強粘性	礫質
10	SN 90	册留統 83	YR/YR	表層腐植層	IIItII dg pa	50cm以下砂層	50cm以下 あり	強粘性	砂質
11	S 96	末広統 64	YR/Y	表層腐植層	IItwfna	なし	20~95cm あり	粘質	強粘性
12	G 92	御車統 56	YR/Y	表層腐植層 なし	IIIdgpiII wfnase	28~54cm混在	54cm以下	強粘性	壊質

泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母材	土 壤 型 (第2次案)	
				土 壤 統 群	全 国 土 壤 統
なし	なし	洪積	非固結堆積岩 (安山岩、砂岩)	細粒褐色森林土	06A01 貝原
なし	なし	残積	非固結堆積岩 (安山岩)	細粒褐色森林土	06A02 小坂
なし	なし	崩積	非固結堆積岩 (擬灰岩)	礫質褐色森林土	06C17 五社
なし	なし	洪積	非固結堆積岩 (集塊岩)	礫質褐色森林土	06C23 千原
なし	なし	洪積	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	細粒灰色台地土	07A03 小向
なし	なし	水積 (河成)	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	細粒褐色低地土 斑紋なし	12A01 櫟下
なし	なし	水積 (河成)	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	礫質褐色低地土 斑紋なし	12C05 滝沢
なし	なし	水積 (河成)	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	礫質褐色低地土 斑紋なし	12C06 二条
なし	なし	水積 (河成)	非固結堆積岩 (安山岩)	礫質褐色低地土 斑紋なし	12C07 外城
なし	なし	水積 (河成)	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	細粒褐色低地土 斑紋あり	12D08 中島
95cm以下 ヨシ混在	95cm以下	水積 (河成)	非固結堆積岩 砂岩・頁岩・集塊	細粒灰色低地土 灰色系	13D13 諸橋
なし	なし	水積 (扇状)	非固結堆積岩	礫質灰色低地土 灰褐色系	13F22 柏山

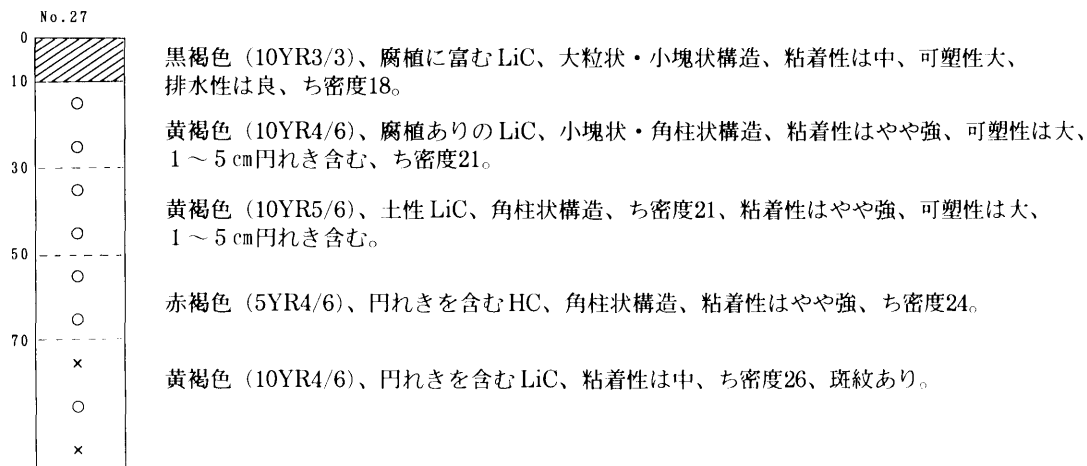
## II. 土壌統の説明

### 1. 桑の沢 (KS) 統

#### A-1 土壌統の特徴

本統は主として桑の沢川とパンケ川に挟まれた比較的標高の高い段丘上に分布する細粒褐色森林土である。全層にわたって土性が細粒質である。作土以下の土層中には径1～5cmの安山岩、珪岩の円れきを含む。一時的に過湿状態になることがある。

#### A-2 土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.27 細粒褐色森林土 06A01)



#### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～10		8.3	16.1	42.1	33.4	LiC	2.6		122
2	10～30		9.4	16.1	40.6	33.9	LiC	2.7		150
3	30～50		8.6	15.8	40.7	34.9	LiC	2.8		139
4	50～70		5.3	12.2	24.2	58.3	HC	2.8		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換酸度	リン酸吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	47	39	14	4.05	0.24	17	7.0	5.8	4.9	0.5	534
2	54	20	26	1.10	0.09	12	1.9	5.2	4.0	14.1	559
3	48	38	14	0.87	0.07	12	1.5	5.0	3.9	24.4	543
4	—	—	—	0.69	0.06	11	1.2	4.8	3.8	53.9	833

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	19.5	320	30.0	24.0	70		2.4		
2	13.2	143	7.5	7.5	45		2.0		
3	13.5	93	7.5	8.0	30		0.8		
4									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ細粒褐色森林土に北町統がある。断面形態も類似しているが、北町統は下層の塩基が極端に低いことで区別している。北農試報告第23編第27区相当

A-5 母材：(安山岩、珪岩、集塊岩)

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：標高120~280m、傾斜2~5°の段丘

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の礫含量	土地の乾燥	(表土の風乾上の硬さ)	(表土の粘性)	(表土の土性)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(微量要素)	(酸害性)	障害	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵食	(耐食度)	(耐風蝕性)					
																															t	d	g	p	w
畑	IV	IV	I	III	3	3	2	II	2	2	2	II	2	1	3	II	1	1	1	2	-	2	1	-	1	II	1	2	II	2	-	-	2	2	1
	簡略分級式				IV	t	III	p	II	w	f	n	a	s	e																				

B-2 利用状況：畑、草地

#### B-3 農業上の留意事項

下層が堅密で透水性が不良である。心土破碎と暗渠排水を行う。特に凹地では暗渠排水は不可欠である。石灰資材の施用が行われていないところでは塩基に欠乏する。深耕により地力が激減する土壌である。

C 調査年月日：平成8年8月

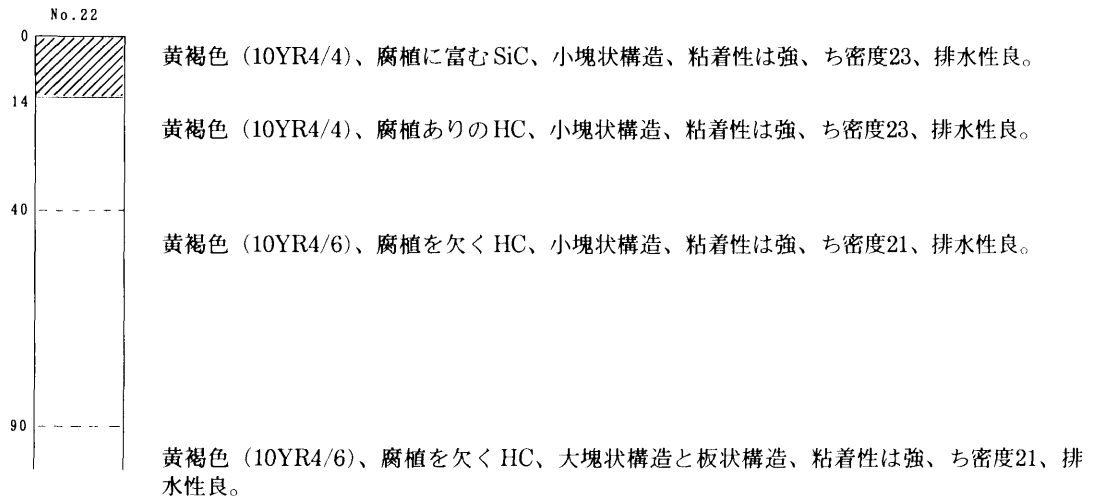
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 2. 北 町 (KT) 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は、下層が堅密で厚い厚い細粒質土層を有する細粒褐色森林土である。段丘から丘陵にかけての傾斜が2～4度の比較的緩傾斜の段丘上に分布する。灰色台地土と隣接した状態で分布する場合が多い。

### A-2 土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.22 細 粒 褐 色 森 林 土 0 6 A 0 2 )



### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真 比 重	容 積 重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風 乾 土	現 地
1	0~14	3.1	1.3	9.3	47.1	42.3	SiC	2.5		115
2	14~40	3.3	3.6	9.0	40.0	47.4	HC	2.7		128
3	40~90	4.2	3.4	8.8	33.8	54.0	HC	2.8		—

層位	3 相 分 布 (%)			全 炭 素 (%)	全 窒 素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	45	36	19	3.47	0.26	15	6.0	5.0	4.0	21.6	932
2	46	40	14	1.33	0.10	13	2.3	5.2	4.1	31.5	1079
3				0.64	0.06	10	1.1	5.4	4.1	13.5	1137

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	18.2	62	7.5	11.8	16		1.8		
2	15.4	10	3.9	7.1	5		1.4		
3	16.9	10	3.9	7.5	4		0.6		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として、同じ褐色森林土の桑の沢統がある。桑の沢統は断面中に径1～5cmの円れきを含むことと下層の水分状態が湿性である。本統は灰色台地土の中成統と隣接することが多い。その場合両者の境界は判別しにくい。北農試報告第23編第22区相当

A-5 母材：非固結火成岩（安山岩質集塊岩）

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：標高160～280m、傾斜2～6°の段丘

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	性表土の難易	耕転の粘着性	(表土の土性)	(表土の粘性)	(表土の風乾土の硬さ)	土地の乾湿性	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃力	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富性	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(微量要素)	(酸害性)	障害物質の有無	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵食	(耐食性)	(耐風蝕性)				
																																		t	d	g	p
畑	III	III	I	I	II	3	3	2	II	2	2	2	II	2	2	2	III	3	3	2	3	-	3	I	-	1	II	1	2	II	2	-	-	II	2	2	1
	簡略分級式 III t n II p w f a s e																																				

B-2 利用状況：畑、採草地

#### B-3 農業上の留意事項

保肥力は中庸であるが石灰資材が施用されていない場合は強酸性で低塩基状態である。一挙に深耕を行うと地力が激減する土壌である。有機物の施用、土壌改良材の施用にこころがける。

C 調査年月日：平成8年8月

調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

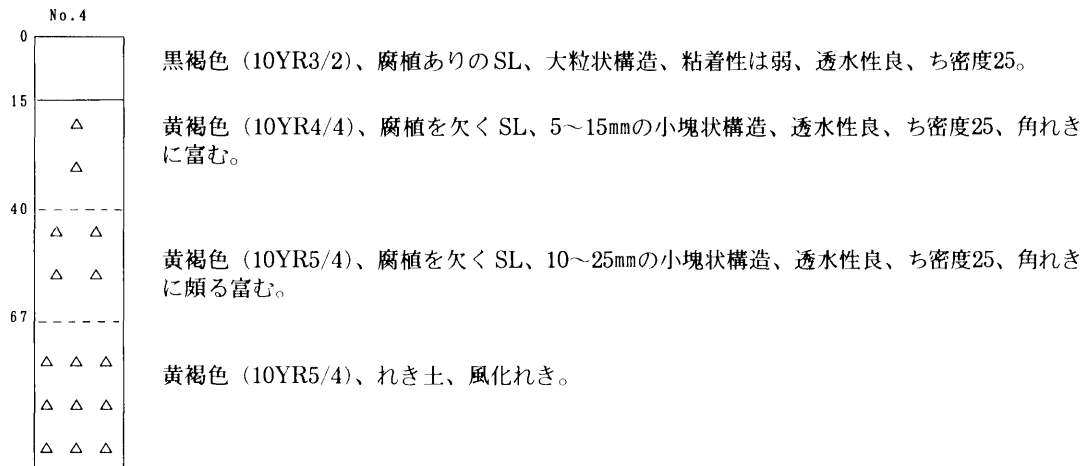


### 3. ペンケ (PE) 統

#### A-1 土壤統の特徴

本統は、下川町内の比較的急傾斜の丘陵地に広く分布するれき質褐色森林土である。土性は粘質～壤質である。傾斜の急な地形では土壤侵食を受けやすい。断面下部はれき層になる。

#### A-2 土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No. 4 れき質褐色森林土 06C17)



#### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 性	真比重	容積重 g /100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～15	2.4	44.0	24.7	17.4	13.9	SL	2.6		127
2	15～40	2.4	47.9	23.2	18.0	10.9	SL	2.7		125
3	40～67	3.8	46.2	28.2	16.0	9.6	SL	2.7		109

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	50	38	12	2.37	0.23	11	4.1				
2	47	32	21	0.92	0.08	11	1.6				
3	40	42	18	0.5	0.03	19	1.0				

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	17.4	344	10.4	8.9	76		5.0		
2	15.3	222	31.4	13.6	64		1.4		
3	18.9	268	42.2	13.6	63		4.1		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似、隣接する土壌統に下川第1統統がある。本統と同じれき質褐色森林土であるが、本統より表層の土性が細粒質であることで区別されるが、表層が基盤整備等で移動している場合は両者の区別は困難である。

A-5 母材：非固結火成岩（流紋岩質の擬灰岩）

A-6 堆積様式：崩積土

A-7 地形：標高160~270m、傾斜8~12°の丘陵

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕地の土性	（表土の粘性）	（表土の乾土の硬さ）	（表土の風乾土の硬さ）	土の乾湿	（透水性）	（保水性）	（湿潤度）	自然肥沃度	（保肥力）	（固定力）	（土層の塩基状態）	養分の豊富	（置換性石灰含量）	（苦土）	（カリ）	（有効態リン酸）	（微量要素）	（酸害性）	（有害物質の有無）	（物理的障害性）	（増冠水の危険度）	（地滑りの危険度）	（傾斜の危険度）	（自然傾斜）	（人為傾斜）	（人為傾斜）	（侵食度）	（耐風性）	（耐水性）			
	t	d	g	p			w					f				n							i		a		s										
畑	III	III	II	I	I	I	I	(2)	III	I	2	(2)	II	2	2	2	II	1	2	2	2	-	2	II	-	2	II	2	2	III	3	-	-	III	3	2	1
	簡略分級式 III t(w) s e II d f n i a																																				

B-2 利用状況：放牧地、採草地

#### B-3 農業上の留意事項

畑地の利用では有効土層が浅く深根性作物の栽培は不適である。土性は粗粒質で土層全体の透水性は良好であることから、養分流亡の起きやすい土壌である。有機物の施用、苦土資材の施用につとめること。

C 調査年月日：平成8年8月

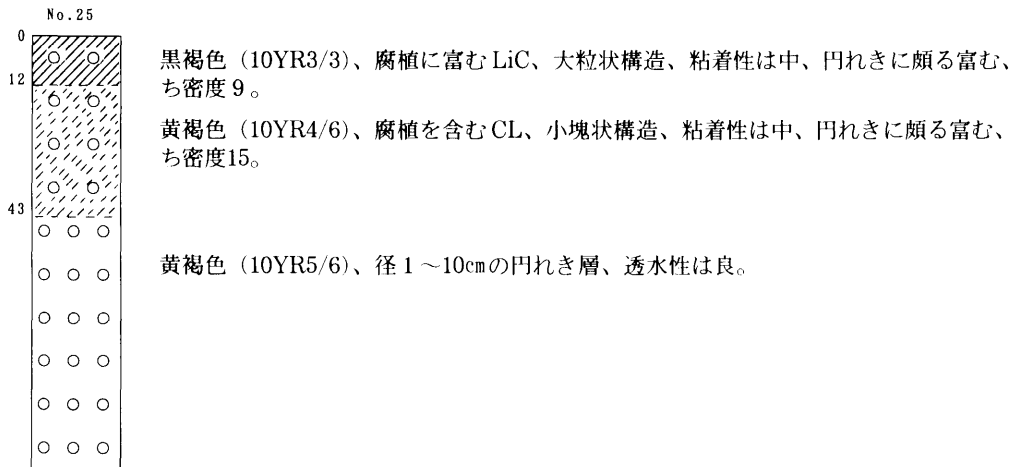
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 4. 下川第1(D)統

### A-1 土壌統の特徴

本統は、下川町西部の標高200m前後の古い段丘上に分布するれき質褐色森林土である。表層から下層にかけてれき含量が多くなる。れき間の土壌は構造がよく発達している。透水性は良好である。れきの存在により昼夜の温度較差は大きい。

### A-2 土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.25 れき質褐色森林土 06C23)



### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~12	2.2	17.6	19.1	30.8	32.5	L:C	2.5		
2	12~43	2.7	27.0	25.4	27.1	20.5	CL	2.6		
3	~		れき層							

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.20	0.30	18	9.0	5.3	4.2	9.0	1185
2				2.31	0.12	19	4.0	5.2	4.1	25.5	1703
3											

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	26.2	223	33.7	25.9	39		2.9		
2	23.2	85	16.9	19.7	19		2.4		
3									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統にペンケ統がある。両者ともれき質褐色森林土であるが、本統の方が表層からの礫含量が多い。北農試報告第23編第25区相当

A-5 母材：非固結堆積岩（その母材は安山岩、砂岩）

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：標高120~300m、傾斜3~8°波状性段丘

#### B-1 簡略分級式：

	土壤生産力可能性等級	有効土層の厚さ	表土の難易	耕転の難易	表土の礫含量	表土の粘着性	表土の風乾上の硬さ	土地の乾湿性	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富状態	置換性石灰含量	苦土	カリン	有効態リン酸	微量要素	酸性	障害性	物理的障害性	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵食度	耐風性	耐食性	耐風性	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
畑	IV	IV	IV	III	3	3	3	II	2	2	2	1	1	2	2	II	1	1	1	2	2	III	3	II	1	2	II	2	--	--	II	2	2	1	1
	簡略分級式																IV t d g III p i II w n a s e																		

B-2 利用状況：畑、草地

#### B-3 農業上の留意事項

れき質土壌であり、れき間の土壌構造が発達して透水性が良好である。塩基、養分の流亡が生じやすい。除れきしてからの土地利用は現実的には困難である。作付け作物の選択が重要である。

C 調査年月日：平成8年8月

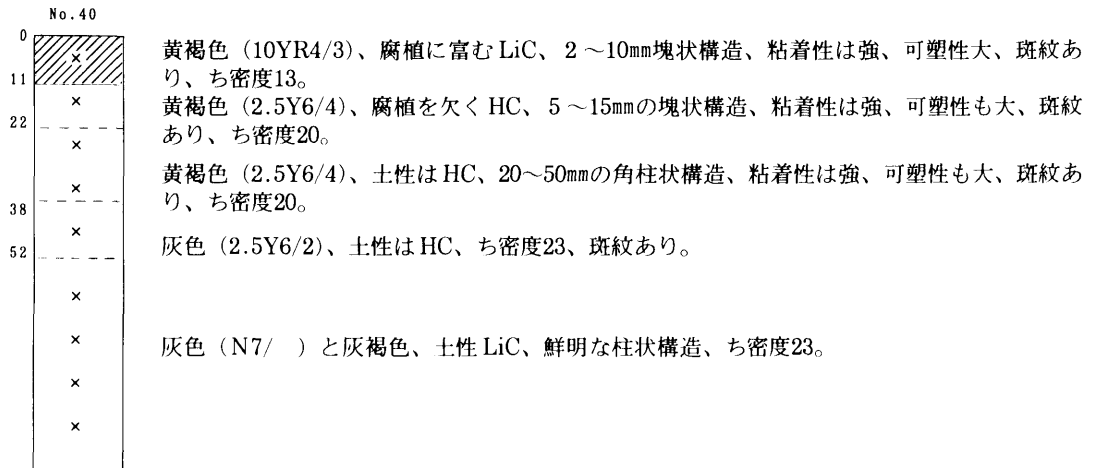
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 5. 中 成 (T) 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は沖積面に続く平坦な低位段丘上に分布する灰色台地土である。下層はあまり堅密ではない。保肥力は中庸であるが塩基に欠ける。地形が平坦であり湿性が強い。

### A-2 土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.40 細 粒 灰 色 台 地 土 0 7 A 0 3 )



### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	2.0	1.6	11.9	43.3	43.2	LiC	2.71	85	
2	11~22	1.9	0.3	7.3	42.4	50.0	HC	2.91	96	
3	22~38	2.4	0.2	6.6	38.1	55.1	HC	3.00	99	
4	38~52	3.1	0.1	5.3	32.7	61.9	HC	2.76	99	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.3	0.33	10	5.8	5.1	4.1	12.2	1027
2				1.1	0.11	9	1.7	5.0	3.9	22.0	1097
3				1.0	0.09	9	1.4	4.9	3.7	39.9	1092
4				0.9	0.09	7	1.4	4.9	3.7	32.3	942

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	23.1	143	7.5	15.0	26		11.9		
2	22.5	123	22.5	13.2	26		1.4		
3	24.6	82	29.8	12.2	20		25.6		
4	25.5	104	37.7	8.5	23		2.4		

#### A-4 他の土壌統との関係

細粒灰色台地土に分類される土壌統は本統のみである。開墾以来畑・草地の利用がほとんどであるが一部水田利用のところがある。下層のち密度は大きく、やや湿性である。北農試報告第23編40区相当

A-5 母材：砂岩、頁岩等の固結堆積岩

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：標高100~200mの傾斜2°前後の平坦な低位段丘

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	（表土の粘性）	（表土の風乾上の硬さ）	（表土の粘着性）	湛水透水性	（作上下50cmの土性）	（作上下50cmの最高ち密度）	酸化還元性	（易分解性有機物含量）	（遊離酸化鉄含量）	（グライ化度）	土地の乾湿性	（透水性）	（保水性）	（湿潤度）	自然肥沃度	（保肥力）	（固定力）	（土層の塩基状態）	養分の豊否	（置換性石灰含量）	（苦土）	（カリ）	（有効態リン酸）	（ケイ酸）	（微量元素）	（微酸量）	（有害物質の有無）	（物理的障害性）	（増冠水の危険度）				
	t	d	g	p			l			r					w				f				n															
稲	III	II	I	I	II	3	3	2	I	I	2	I	I	I	I					II	1	2	3	III	2	3	2	1	-	-	-	1	I	-	1	I	1	1
畑	III	III	I	I	III	3	3	2							III	3	3	2	II	1	3	3	III	2	3	2	1			2	I	-	1	I	1	1	1	
簡略分級式							水田					III	n	II	t	p	f		畑				III	t	p	w	n	II	d	f								

B-2 利用状況：畑、草地、一部水田

#### B-3 農業上の留意事項

本統は、地形が平坦で土性は細粒で強粘質である。下層の透水性は不良である。従って、畑作物では湿害の恐れがかなりある。全層にわたって塩基が不足し、強酸性である。排水改良と酸性矯正、苦土資材の施用に努める。

C 調査年月日：平成8年8月

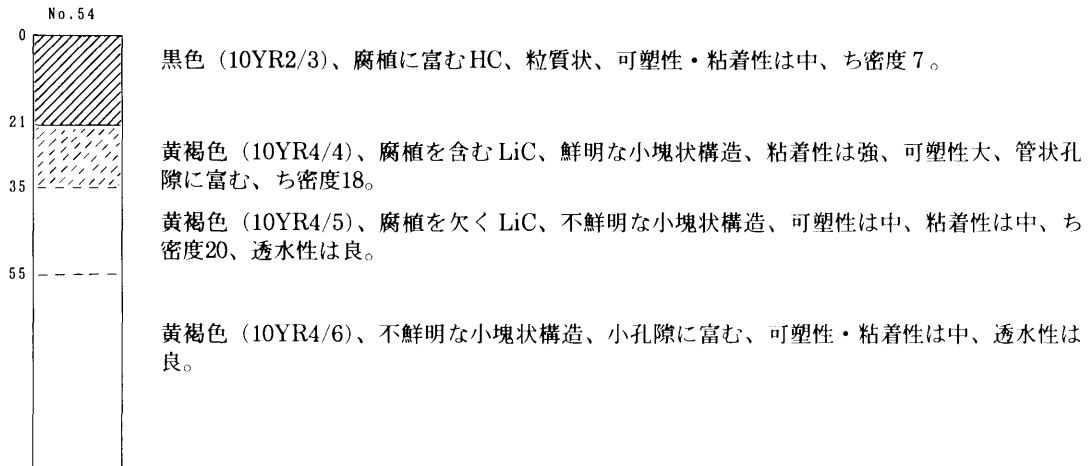
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 6. 下川第3(DS)統

### A-1 土壤統の特徴

本統は名寄川の沖積面に分布するやや古い堆積の沖積土である。土壤型は細粒褐色低地土である。表層は腐植が比較的多い。下層の土壤構造の発達程度は良好で透水性は良好である。保肥力は大きい、塩基のうち苦土に欠乏する土壤である。石れきは少ない。

### A-2 土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.54 細粒褐色低地土 12A01)



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法土性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~21	4.5	0.6	17.1	35.0	47.3	HC	2.6	89	
2	21~35	4.3	0.3	26.5	30.7	42.5	LiC	2.6	103	
3	35~55	4.2	1.1	44.0	28.4	26.5	LiC	2.6	117	

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換酸度	リン酸吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	34	37	29	—	—	—		5.1	4.1	15.6	1325
2	34	54	12		0.16	11	3.0	5.1	4.1	21.9	1469
3	38	48	14		0.07	10	1.3	5.3	4.3	13.3	1165

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	36.4	307	10.8	17.9	34		10.4		
2	22.8	219	10.8	9.4	38		1.5		
3	20.1	189	47.7	8.9	47		0.8		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統として矢文統(Y)がある。この土壌統は下層に砂れき層を有することで本統と区別される。北農試報告第23編第54区に相当

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積（河成沖積）

A-7 地形：平坦な沖積地

#### B-1 簡略分級式：

	土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	耕耘の難易	耕転の礫含量	表土の粘性	表土の風乾上の硬さ	表水の透水性	湛水	酸化還元性	遊離酸化鉄含量	易分解性有機物含量	土の乾湿性	自然肥沃度	養分の豊富	置換性石灰含量	固肥力	保肥力	湿度	透水性	地質	障害性	災害性	地滑りの危険度	
	t	d	g	p		l				r			w	f	n							i	a		
稲	II	I	I	I	II	3	3	2	I	1	2	I	2	2	1										
畑	II	II	I	I	II	3	3	2																	
	簡略分級式					水田				II	p	n	a	畑	II	t	p	n	a						

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

土壌の物理性は良好で、透排水性も良好である。酸性が強く塩基のうち苦土が欠乏する土壌なので酸性矯正は苦土石灰の施用が望ましい。

C 調査年月日：平成8年8月

調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

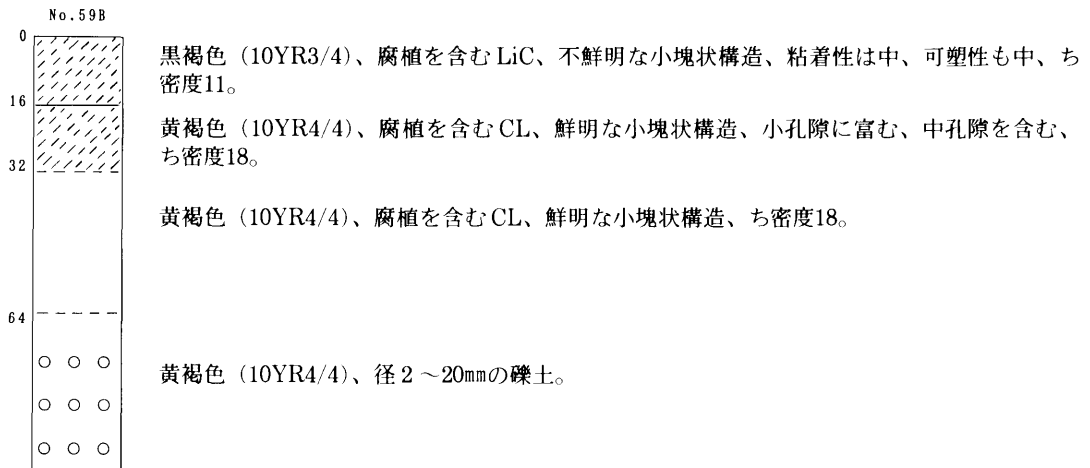


# 7. 矢 文 (Y) 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は名寄川の沖積面に分布するれき質褐色低地土である。深さ60cm前後から砂れき層が出現する。下層の土性は細粒質であるが土壤構造の発達は良好で透排水性には支障はない。

## A-2 土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.59B れき質褐色低地土 1 2 C 0 5 )



## A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~16	3.1	5.5	35.9	31.8	26.8	LiC	2.6		100
2	16~32	2.7	4.6	43.4	29.0	23.0	CL	2.6		114
3	32~64	2.5	7.8	36.7	32.2	23.3	CL	2.7		119

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	44	35	21	2.83	0.29	10	4.9	6.1	5.0	8.8	705
2	43	43	14	1.62	0.17	9	2.8	6.0	4.8	0.3	880
3	44	42	14	1.21	0.13	9	2.1	5.9	4.4	7.2	841

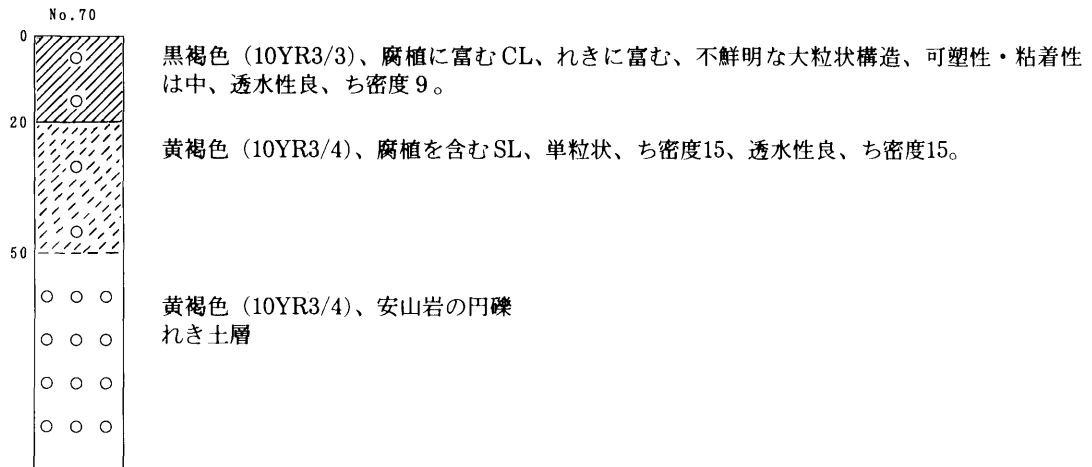


## 8. 下川第2(DN)統

### A-1 土壌統の特徴

本統は主として名寄川の沖積面に分布するれき質褐色低地土のうちれき層が40～60cmの深さに出現する土壌統である。作土下の土性は粗粒質で透水性は良好である。

### A-2 土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.70 れき質褐色低地土 12C06)



### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～20	2.8	21.1	26.3	28.8	23.8	CL	2.61		90
2	20～50	2.0	52.2	26.4	11.1	10.3	SL	2.65		118
3	50～		砂れき層							

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	34	38	28	4.28	0.42	10	7.4	6.4	5.4	0.5	1343
2	39	38	23	1.27	0.13	10	2.2	6.6	5.4	0.3	1132
3											

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	35.7	774	39.4	40.0	86	34.5			
2	24.6	545	16.9	8.0	85	2.3			
3									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と断面形態が類似する統に矢文統がある。分布も本統と隣接、並行していることから両者の境界は決めにくい。相違点として下川第2統は次層が粗粒質、矢文統は細粒質であることがいえる。北農試報告第23編第70区相当

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積（河成沖積）

A-7 地形：平坦地

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	耕耘の難易	耕土の粘性	表土の粘性	表土の風乾土の硬さ	湛水透水性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含量	土の乾湿性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	窒素	ケイ酸	微量元素	酸性	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度
t	d	g	p			l		r		w		f		n									i	a		
稲	II	I	II	I	I	2	2	1	II	2	2	I	2	1	1											
畑	III	II	III	I	1	2	2	1				I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式		水田		II d l a		畑		III d II t a																		

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

水田では作土より下層の透水性が大きいので湛水透水性が過多になる恐れがある。畑利用では塩基の流亡が生じやすく、そのバランスが崩れやすいので注意する。有機物の施用と深耕により生産力があがる土壌である。

C 調査年月日：平成3年8月

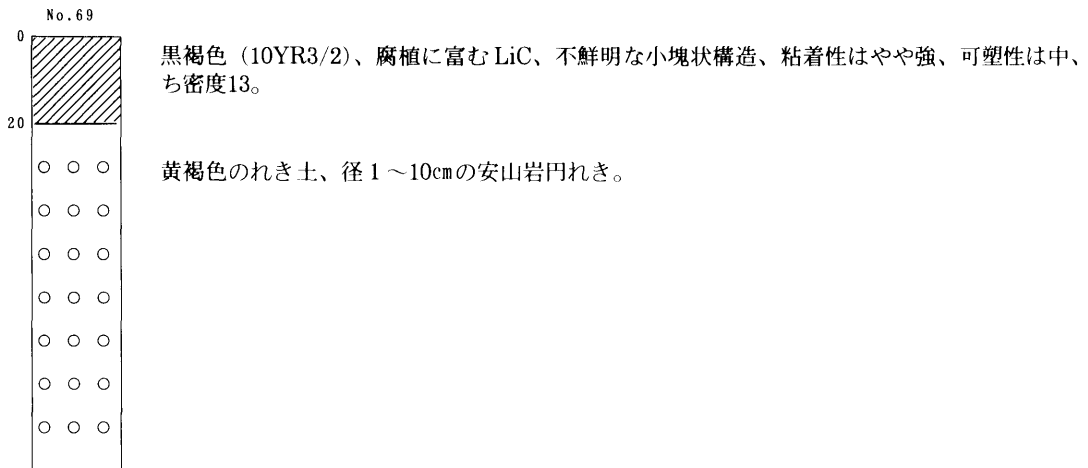
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 9. パンケ (PN) 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は主に下川パンケ川、サンル川の沖積面に分布するれき質褐色低地土である。作土直下から砂れき層が出現する。れきの大きさは径1~10cmの円れきである。

### A-2 土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.69 れき質褐色低地土 12C07)



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~20	5.3	7.0	24.3	33.2	35.5	L:C	2.7		89
2	20~		砂れき層							

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	33	54	13	3.01	0.28	11	5.2	5.2	4.2	14.0	1434
2	砂れき層										

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	26.7	214	57.7	5.2	40		6.4		
2									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じれき質褐色低地土に矢文統があるが、本統より砂れき層出現位置が深い。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積（河成冲積）

A-7 地形：平坦地

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の礫含量	(表土の粘性)	(表土の風乾土の硬さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	(作上下50cmの最高密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土の乾湿度	(グライ化度)	(透水性)	(保水性)	自然肥沃度	(湿潤度)	(保肥力)	(固定力)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(上層の塩基状態)	(有害物質の有無)	障害性	酸量要度	(微酸性)	(ケイ酸素)	(有効態リン酸)	(カリ)	(苦土)	障	災		
t	d	g	p			l		r		w		f		n										i									a		
III	I	III	II	3	3	III	3	2	I	1	1	1					I	1	2	2	III	1	1	3	2	-	-	-	1	II	-	1	II	2	1
		II	III	II	3	3	2						(II)	1	2	(2)	I	1	2	2	III	1	1	3	2	-	-	-	2	II	-	2	II	2	1
簡略分級式				水田			III d l n II p i a			畑		III d g n t p (w) i a																							

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

水田では透水過多になる恐れがある。また、畑利用では耕耘により下層のれきが作土内に混入する。場合によっては石れき除去、浅耕土客土が必要となる。干ばつ害を受けやすい土壌であるから有機物施用による水分保持能力を高める必要がある。

C 調査年月日：平成8年8月

調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

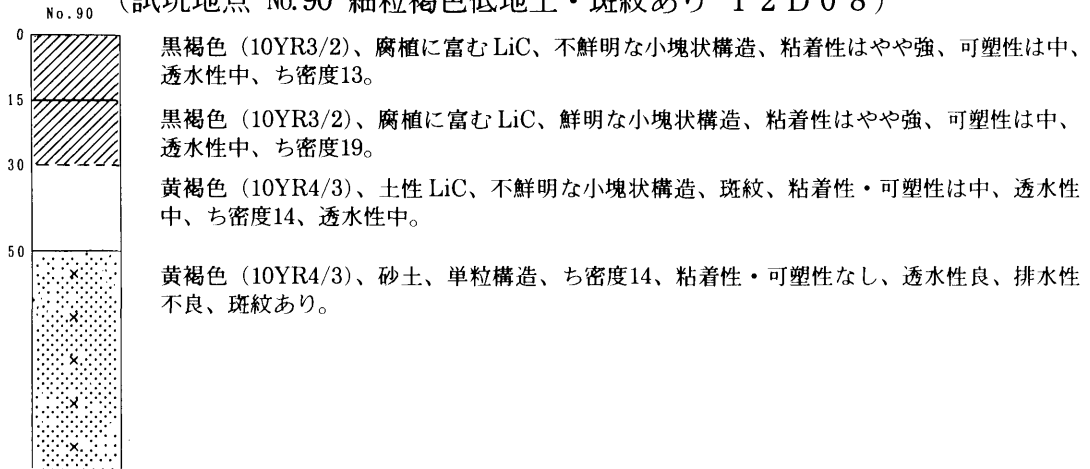
## 10. 珊 瑠 (SN) 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は褐色低地土のうち、やや湿性を呈する部分を取りまとめた土壤統である。土壤断面中に鉄の斑紋が認められる。主として珊留第一地区、上名寄第三地区南部の沖積面に分布する。

### A-2 土壤断面の概要と柱状図

(試坑地点 No.90 細粒褐色低地土・斑紋あり 1 2 D 0 8)



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	5.3	1.7	23.1	39.1	36.2	LiC	2.8		89
2	15~30	5.6	0.6	20.0	38.6	40.9	LiC	2.7		90
3	30~50	5.0	2.4	35.4	33.1	29.1	LiC	2.8		94

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1							—	5.5	4.5	3.2	1052
2							—	5.5	4.5	3.5	1329
3				0.7	0.13	6	1.4	5.8	4.6	1.6	1139

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		プレイ2	トルオグ法		
1	34.1	376	80.6	22.1	52	—			
2	37.1	388	83.4	6.6	49	—			
3	30.9	375	101.6	6.6	61	—			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ褐色低地土に下川第3統があるが、この土壌統は本統より乾性タイプである。

北農試報告第23編第96区相当

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積（河成沖積）

A-7 地形：

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	有効土層の深さ	表土の厚さ	表土の難易	耕転の難易	耕土の粘性	表土の粘性	表土の乾土の硬さ	湛水透水性	酸化還元性 (易分解性有機物含量)	遊離酸化鉄含量	土の乾湿度 (グライ化度)	地の透水性	自然肥沃度 (保水度)	自然肥沃度 (湿度)	自然肥沃度 (保水度)	固定力	養分の豊富	置換性石灰含量	(有)苦土	(有)カリ	(有)窒素	(有)ケイ酸	(有)微量元素	微酸度	障害性	物理的障害性	有害物質の有無	増冠水の危険度	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p				l		r		w		f		n											i		a		
稲	II	II	I	I	II	3	3	2	I	1	2	2	1			I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	III	II	II	3	3	2						I	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式		水田		II t p a		畑		III t II d g p a																						

B-2 利用状況：水田、畑

#### B-3 農業上の留意事項

下層の透水性は良好であるが、上部は細粒質で粘着性が強く耕耘にやや困難である。踏圧による透水性低下に留意しつつ、有機物管理と透水性改善に努める。畑作物に対しては暗渠は不可欠である。

C 調査年月日：平成8年8月

調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

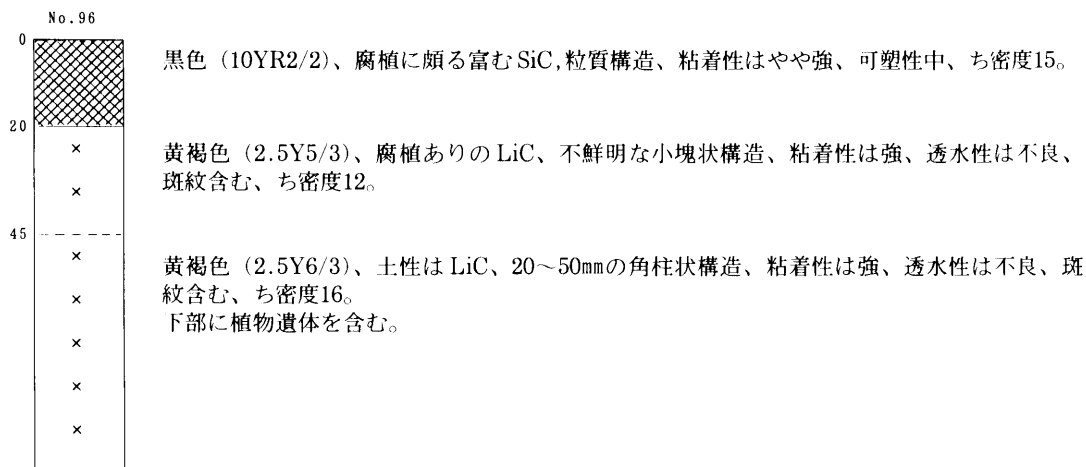


# 11. 末 広 (S) 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は河岸段丘に接する河川沖積面に分布する灰色低地土をとりまとめた。以前は過湿状態にあったため、表層に腐植が集積している。断面下部には泥炭を含む。土性は全層にわたって細粒質で粘着性が強い。土層全体の透水性は不良である。

## A-2 土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.96 細 粒 灰 色 低 地 土 1 3 D 1 3 )



## A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風 乾 土	現 地
1	0~20	7.2	4.9	23.0	47.7	14.3	SiCL	2.5		68
2	20~45	5.3	2.7	25.9	44.9	26.5	LiC	2.6		69
3	~									

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				7.34	0.49	15	12.7	5.8	4.6		2290
2				2.72	0.21	13	4.7	5.5	4.4		2097
3											

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	38.4	240	11.2	14.6	25		3.0		
2	24.9	49	7.1	16.5	10		2.4		
3									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ灰色低地土に御者統があるが、この統は作土直下かられき層が出現することで本統と区別できる。北農試報告第23編第96区相当

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（河成沖積）

A-7 地形：平坦地

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の礫含量	(表土の粘性)	(表土の風乾土の硬さ)	湛水透水性	(作土50cmの最高密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土地の乾湿度	(グライ化度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分の豊否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(有効態カリ)	(ケイ酸)	(微量元素)	障害性	(物理的障害性)	災害	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)								
t	d	g	p			l		r			w		f		n		i		a																	
稲	II	I	I	I	2	2	1	I	1	2	I	2	1	2			II	1	4	2	II	1	2	2	2	-	-	-	1	I	-	1	II	2	1	
畑	II	II	I	I	I	2	2	1						II	2	2	2	II	1	4	2	II	1	2	2	2	-	-	-	2	I	-	1	II	2	1
簡略分級式																																				
水田																																				
II f n a																																				
畑																																				
II t w f n a																																				

B-2 利用状況：水田、畑

#### B-3 農業上の留意事項

上部段丘から水の影響を受ける地形のところでは承水路の設置が必要である。塩基のうち苦土に欠乏するので苦土資材の施用に心がける。

C 調査年月日：平成8年8月

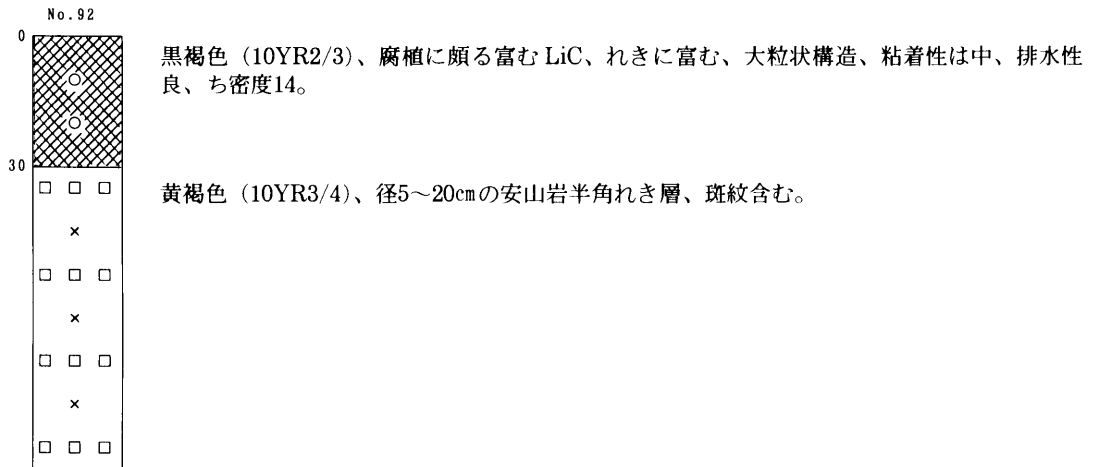
調査・編集：北海道立上川農業試験場 土壌肥料科

## 12. 御 車 (G) 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は扇状地に分布する湿性のれき質灰色低地土である。地表かられきに富み、深さ30cm以下は径5~20cmの安山岩の半角れき層となる。また下層は伏流水の影響が強い。

### A-2 土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.92 れき質灰色低地土 13F22)



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~30	5.0	10.6	18.4	35.7	35.3	L:C	2.6	87	
2	30~		角れき層							

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1								5.5	4.6	2.9	1107
2											

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		ブレイ2	トルオグ法		
1	41.6	243	20.3	12.7	46	—	2		
2									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統は扇状地に分布するため、礫の出現する深さ、量には変化がある。流水の影響を受ける。

北農試報告第23編第92区相当

A-5 母材：固結火成岩（集塊岩、安山岩）

A-6 堆積様式：水積（扇状堆土）

A-7 地形：標高95～240m、緩傾斜（2～5°）の低地

#### B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕土の粘性	（表土の粘性）	（表土の粘着性）	（表土の風乾土の硬さ）	土の乾湿	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	（土層の塩基状態）	養分の豊富	（置換性石灰含量）	（苦土）	（カリ）	（有効態リン酸）	（微量要素）	（酸害性）	（有害物質の有無）	（物理的障害性）	（増冠水の危険度）	（地滑りの危険度）	傾斜	（自然傾斜）	（傾斜の方向）	（人為傾斜）	（侵食度）	（耐風性）	（耐食性）	（耐風性）		
t	d	g	p					w					f			n							i		a		s										
畑	III	I	III	III	III	3	3	2	II	2	2	2	II	1	2	I	II	1	1	2	—	—	2	III	—	3	II	2	2	II	2	—	—	II	2	2	1
	簡略分級式 III d g p i II w f n a s e																																				

B-2 利用状況：放牧地、草地

#### B-3 農業上の留意事項

地形的に伏流水の影響を受けるので耕作地では、承水路、排水路の整備が必要である。

C 調査年月日：平成8年8月

調査・編集：北海道立上川農業試験場，土壤肥料科

# (下川町土壌調査) における土壌分析結果

北海道立天北農業試験場

土 壌 分 析 結 果 (*mg/100g)				土 壌 改 良 資 材				地先農家名
交 換 性 塩 基			有効態 リン酸	リ ン 酸 吸収係数	土壌重量 t/ha	炭カル t/ha	リ ン 酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> Kg/ha	
K <sub>2</sub> O	CaO	MgO						
5.3	236	44.6	39.4	1050	1611	4.19	203	舂田俊勝
39.1	141	18.2	35.6	1370	1419	6.24	219	伊藤吉松
19.0	354	31.6	143.4	1200	1650	5.12	210	山中政治
10.5	566	36.9	24.6	1520	1688	0.0	226	木下一巳
9.2	388	47.6	21.2	1430	1487	4.19	222	佐藤 功
6.3	397	44.9	4.6	1100	1632	1.31	255	松田正信
9.3	206	10.0	13.7	940	1641	4.59	200	町 有 地
30.9	312	41.9	4.5	1150	1563	3.28	258	高垣一志
3.5	284	33.8	70.0	960	1779	2.31	200	鈴木正範
7.1	96	14.3	15.5	1520	1554	4.66	226	志田和子
28.8	240	23.5	33.9	1360	1517	1.97	218	薄口 博
17.3	438	36.0	64.4	1480	1496	1.20	224	押田 真
5.9	526	36.9	76.3	1370	1535	0.0	219	野沢 保
37.3	286	41.4	48.1	1370	1421	4.97	219	中山誠一
129.2	487	49.5	57.8	1870	1424	3.99	244	中村 正
18.8	408	56.4	30.7	1240	1608	7.08	212	大橋秀男
48.4	285	24.0	13.1	1030	1707	1.37	202	高垣一志
5.6	207	16.7	49.5	850	1695	1.36	200	木下一巳
69.4	530	48.3	57.5	1120	1731	1.38	206	佐藤 功
25.6	326	63.4	54.7	820	1509	6.49	211	舂田俊勝
4.5	242	10.2	18.6	890	1827	2.74	200	坂口恵子
14.1	38	7.3	8.8	1110	1545	7.26	231	渡辺哲男
27.5	194	29.6	95.3	910	1440	8.50	212	佐藤松雄
39.2	210	23.5	55.2	1200	1952	4.88	200	神成忠隆
8.6	373	68.9	10.7	1210	1632	6.20	210	山口健一
47.1	658	134	76.8	1520	1511	4.23	232	山口健一

平成6年度 道営草地整備改良事業

地力保全 地図上の 地点番号	土 壤 保 全 土 壤 統 群 名	地力保全 基本調査 土 壤 統 名	草地整備 事業時の 地点番号	土性(触感) 作土/心土	腐 植 含 量	pH
						(H <sub>2</sub> O)
113	細粒褐色森林土	桑の沢統	1/13	CL/CL	富む	6.0
114			1/14	CL/CL	含む	5.4
505		北町統	5/5	CL/CL	含む	5.6
406			4/6	CL/CL	含む	7.0
510			5/10	CL/CL	含む	5.5
115			1/15	C/C	含む	6.3
298			29/28	CL/CL	含む	5.7
202	礫質褐色森林土	ペンケ統	2/2	L/L	含む	5.7
121			1/21	L/L	含む	5.9
222			2/22	CL/CL	含む	5.3
224			2/24	CL/CL	富む	5.9
226			2/26	CL/CL	富む	6.2
120			1/20	CL/CL	富む	6.6
523			5/23	CL/CL	富む	5.5
225			2/25	CL/CL	富む	5.9
427			4/27	L/CL	含む	6.1
302	細粒灰色台地土	中成統	3/2	L/CL	含む	5.9
600			6A	C/C	含む	5.0
110			1/10	CL/CL	含む	5.9
413			4/13	CL/CL	富む	5.3
300	礫質褐色低地土	下川第2統	3A	SL/CL	含む	6.1
800			パンケ統	8A	L/SL	富む
		9A			富む	5.0
101		1/1		SL/SL	含む	5.9
212		2/12		CL/CL	含む	5.5
112		御者統	1/12	CL/CL	富む	5.8